

F2-29

## 地域と連携した取り組みに着目した「道の駅」の機能とその分類

—千葉県内に所在する道の駅29施設を対象として—

### Functions and Classification of “Roadside Station” Focusing on Initiatives in Collaboration with the Local Community

-Focusing on 29 Roadside Station Facilities Located in Chiba Prefecture-

○寺門由唯<sup>1</sup>, 天野光一<sup>2</sup>, 西山孝樹<sup>2</sup>

\*Yui Terakado<sup>1</sup>, Koichi Amano<sup>2</sup>, Takaki Nishiyama<sup>2</sup>

In this study, we targeted 29 roadside stations located in Chiba prefecture. When we focused on the facilities and initiatives where tourists and local residents gather, we were able to classify them into two categories that are working in collaboration with the local community inside and outside the site of roadside station.

#### 1. はじめに

わが国の「道の駅」は、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩施設として整備されてきた。最近では、地域とともにつくる個性豊かな賑わいの場となることが期待されている。

#### 2. 研究方法

そこで本稿では、千葉県内に所在する「道の駅」29施設を対象とした(Table. 1)。地域の特産品の販売等を行うといった従来の機能ではなく、観光客や地域住民が集う施設や取り組みに着目して分類を行った。

#### 3. 地域と連携した取り組みによる道の駅の分類

千葉県内の「道の駅」ホームページおよび「道の駅」連絡会のポータルサイト「道の駅公式ホームページ」を対象とし、イベントや施設の情報を抜き出した<sup>[1]</sup>。

そして、地域の特産品などの販売、地域の情報発信、体験や交流を含むイベント、地元住民あるいは観光客向け施設の有無等に着眼し、Table. 2のように分類した。

#### 4. 「道の駅」施設内完結型【23施設】

道の駅で企画されるイベントや取り組み等が、施設内で完結するもので、以下の5つに分類できた。

##### (1) 観光客・地元住民双方利用型【5施設】

###### (観光客・地域住民双方の交流を伴う)

道の駅での地域の特産品の販売やレストランの運営はもちろん、農産物の収穫体験や地域住民との交流も可能であった。さらに、観光客を対象とする地域のことを学ぶ資料館等の施設に加えて、地域住民が利用可能な調理室や多目的室が備えられていた。

例えば、道の駅「とみうら」では、毎月地域の方が講師となり、特産の枇杷やキンセンカを使った石鹸づくり教室や太巻き寿司づくりなどの体験教室、地域の子供が参加できるワークショップを開催していた。また、

地元交流施設も設けられ、住民同士がコミュニケーションをとることが可能であった。

道の駅「八千代」では、施設内にビニールハウスや農園、調理室があった。地元農家による芋堀や野菜の収穫、米の栽培、野菜の植えなどの農業体験が可能であった。また、料理教室の先生が講師となり、地域の名産である牛乳を使ったバターづくりや果物のジャムづくり、野菜を使った料理教室が開催されていた。農家を目指す人向けの体験農園施設もあり、植えから収穫までを担うこともできる。必要な道具はすべて用意されており、誰でも参加しやすい取り組みである。

道の駅「保田小学校」では、飲食や物販のほか、廃校になった小学校をリメイクした温泉や宿泊部屋があり、観光地として人気である。また、地域住民の相談窓口やレンタルルームなどもあり、地域住民の憩いの場としても利用されている。

##### (2) 観光客利用特化型【4施設】

###### (観光客・地域住民双方の交流を伴う)

道の駅において、観光客を主眼に置いた様々な体験イベントが積極的に行われ、その際には地域住民との交流を伴うイベントや取り組みが行われていた。(1)でみられたような地域住民同士が集えるイベントや施設が整備されていない道の駅であることから、「観光客利用特化型」とした。

例えば、道の駅「鴨川オーシャンパーク」には、目の前が海であることから、展望台や展望テラスの設置、花摘み体験ができる花畑、鴨川温泉から湧き出るお湯を使用した足湯の設置など、観光客にとって魅力的な施設が整備されていた。さらに、夏季限定では付随の公園に人工池が開業し、誰でも水遊びができ、観光客が楽しめる観光スポットとして賑わっていた。

1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

**(3) 地元住民利用特化型【4 施設】**

道の駅の周辺地域で必要な住民生活施設が整備されたいわゆる「小さな拠点」として利用されることが想定されるものが該当した。観光客と地域住民の交流も期待されるが、その記載はなかった。道の駅「オライはすぬま」では地元住民の交流の場とする目的で運営を始めた防災機能を持つコミュニティスペースがあり避難場所にもなっていた。そして、道の駅「むつざわ」では、スマートウェルネスタウンであり、キッズスペースや温泉、レンタルルーム、食品加工場などの地元住民が主に利用する施設が整っていた。

**(4) 観光施設付随型【3 施設】**

観光施設の近傍に位置している道の駅で、観光施設への誘導やお土産店としての役割を担っていた。道の駅自体で、収穫体験等のアクティビティや観光客と地域住民の交流などは積極的に行われておらず、地域の物産品や飲食の提供にとどまっていた。例えば、野島崎灯台へとつながる散歩道と繋がる道の駅「白浜野島崎」では、観光案内の窓口などもなく、HPにも野島崎灯台へのルートが掲載されているにとどまっていた。飲食スペースはなく、歩きながら食べられるテイクアウト商品や物販を主とした運営となっていた。

**(5) 従来機能踏襲型【7 施設】**

従来の「道の駅」が持つ機能である地域の特産品の販売やレストランの営業、地域の情報発信などを主として展開している施設が該当した。この型に該当した道の駅では、周辺住民相互あるいは観光客と周辺住民との交流などは積極的に実施されてはいなかった。

**5. 「道の駅」周辺地域巻き込み型【6 施設】**

道の駅の敷地内だけではなく、その敷地の外にある周辺観光地や農園を巻き込んだイベントを行っていた。周辺の地域活性化も可能であり、今後の道の駅として、理想的な型であると考えられる。そして、本章で述べる道の駅は、敷地外で体験できる交流イベントや体験できるアクティビティとして農業体験と水辺で体験できるアクティビティの2通りに分類することができた。

**(1) 農業体験提供型【3 施設】**

道の駅「しょうなん」では、たけのこやかぼちゃの収穫体験や田植え、稲狩りなどが体験可能であった。その申し込みや集合は道の駅で行い、道の駅近傍の農家を訪れて収穫体験を行う仕組みが導入されていた。

**(2) 水辺のアクティビティ提供型【3 施設】**

道の駅「水の郷さわら」では、目の前の利根川で体験できるマリンジェットやボートの貸し出しを行っていた。また、道の駅発の遊覧船があり、川沿いの観光地を周遊して戻るコースがあり、大きな魅力であった。

**6. まとめ**

本稿では、千葉県内の道の駅 29 施設に着目し、大きく2つの型に分類することができた。「道の駅」の敷地内で何かしら地域との取り組みが行われている施設では、物販や地域情報の発信にとどまる従来の機能が踏襲されている施設はあったが、観光客と地域住民、地域住民相互の交流が図られていた。そして、道の駅から一歩外に出て地域を巻き込みながら周辺地域と連携した施設も数は少ないながらも存在していた。

**参考文献**

- [1] 国土交通省ホームページ「道の駅 概要」：  
<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>, 2021.9.6 閲覧。

Table. 1 研究対象とした千葉県内の道の駅一覧

No	「道の駅」名	型名	No	道の駅名	型名
1	とみうら (南房総市)	1(1)	16	オライはすぬま (山武市)	1(3)
2	三芳村 (南房総市)	1(1)	17	ながら (長柄町)	2(1)
3	やちよ (八千代市)	1(1)	18	むつざわ (睦沢町)	1(3)
4	きよなん (鋸南町)	1(5)	19	白浜野島崎 (南房総市)	1(4)
5	鴨川オーシャンパーク (鴨川市)	1(2)	20	南房パラダイス (館山市)	1(5)
6	ローズマリー公園 (南房総市)	1(2)	21	水の郷さわら (香取市)	2(2)
7	ふれあいパーク・君津 (君津市)	1(5)	22	風和里しばやま (芝山町)	1(3)
8	しょうなん (柏市)	2(1)	23	和田浦 WA・O! (南房総市)	1(5)
9	たけゆらの里おおたき (大多喜町)	1(5)	24	発酵の里こうざき (神崎町)	1(5)
10	多古 (多古町)	2(2)	25	季楽里あさひ (旭市)	1(2)
11	あずの里いちほら (市原市)	1(3)	26	保田小学校 (鋸南町)	1(1)
12	くりもと (香取市)	1(1)	27	みのりの郷東金 (東金市)	1(2)
13	ちくら・潮風王国 (南房総市)	2(2)	28	木更津うまくだの里 (木更津市)	1(4)
14	富楽里とみやま (南房総市)	2(1)	29	いちかわ (市川市)	1(4)
15	おおつの里 (南房総市)	1(5)			

Table. 2 研究対象とした千葉県内の道の駅 29 施設の種類

型名	1. 「道の駅」施設内完結型					2. 「道の駅」周辺地域巻き込み型	
	(1) 観光客・地元住民 双方利用型	(2) 観光客利用特化型	(3) 地元住民利用 特化型	(4) 観光施設付随型	(5) 従来機能踏襲型	(1) 農業体験 提供型	(2) 水辺のアクティビティ 提供型
模試図							
件数 29 施設	5 施設	4 施設	4 施設 23 施設	3 施設	7 施設	3	3 6 施設